

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用英語2	
科目基礎情報						
科目番号	4S02		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし (ハンドアウトを使用)					
担当教員	白井 龍馬					
到達目標						
<p>1. 「英語で学ぶ」経験を通して、英語4技能をバランスよく伸ばすだけでなく、英語で様々なタスクをクリアする汎用能力も高めていく。</p> <p>2. 「食べ物と諸社会問題との関連」について英語で学ぶために必要な語彙や文法を習得する。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
英語運用能力	英語で提示される学習内容を理解し、それに対して自分が考えたことや感じたことなどを表現できる。		学習内容が英語で提示されたとき、それについて理解できる。		英語で提示された内容が理解できない。	
汎用能力	提示された内容について、クラスメイトの考えや感想を踏まえて自分の意見を相対化させ、発展させることができる。		提示された内容について、考えたことや感じたことを適切な方法で他者に伝えることができる。		提示された内容について感想や考えをもつことができない。	
語彙、文法、構文	ハンドアウト本文で使用されている語彙や文法や構文の80%を習得する。		ハンドアウト本文で使用されている語彙や文法や構文の60%を習得する。		ハンドアウト本文で使用されている語彙や文法や構文の60%を習得できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
4 JABEE E-2						
教育方法等						
概要	これまでで習得した語彙・文法・構文の知識に基づいて、提示された内容について英語で理解し、対話しながら学びを深めていく。					
授業の進め方・方法	授業はハンドアウトに沿って進める。教師の一方的な解説の時間はほとんどなく、学生同士が対話しながら授業内容を徐々に深めていく。					
注意点	<p>(1) 定期試験50%、課題提出50%を目安として評価する。</p> <p>(2) 評価基準：60点以上を合格とする。</p> <p>(3) 再試験：必要に応じて実施するが、授業に参加し、課題を提出した学生を対象とする。</p> <p>(4) 事前学習：ハンドアウトの指定された箇所を事前に読んでおくことを予習として課すこともある。</p> <p>(5) 学修単位：本科目は学修単位であるため、1単位当たり45時間(授業15時間に対して30時間に相当する授業以外)の学修が必要である。毎回の授業にて指定される課題について取り組む。</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	授業の内容と学習の仕方を理解する。		
		2週	Unit1 Coffee beans	食品輸入の環境負荷について英語で学ぶ。		
		3週	Unit2 Bananas	食品大量生産の環境コストについて英語で学ぶ。		
		4週	Unit3-1 Olives	食品生産をめぐる地域の軋轢について英語で学ぶ。		
		5週	Unit3-2 Avocados	食品生産をめぐる地域の軋轢について英語で学ぶ。		
		6週	Unit4 GMO products-1	遺伝子組み換え食品の可能性について英語で学ぶ。		
		7週	Unit4 GMO products-2	遺伝子組み換え食品の可能性について英語で学ぶ。		
		8週	復習	これまでの内容を復習し定着させる。		
	4thQ	9週	Unit5 Technology and Food	食品生産に使われる科学技術とその環境負荷について英語で学ぶ。		
		10週	Unit6 Vegetarianism	菜食主義と文化的相互理解の重要性について英語で学ぶ。		
		11週	Unit7 Halal Food	宗教観と食文化の関係について英語で学ぶ。		
		12週	Unit8 Presentation (Prep)	プレゼン準備		
		13週	Unit8 Presentation-1	プレゼンテーションを行う。		
		14週	Unit8 Presentation-2	プレゼンテーションを行う。		
		15週	成績確認・復習	成績確認・復習		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
評価割合						

	試験	課題提出	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0